

令和4年度
西区生活支援体制整備事業活動報告書



西区第1層・第2層生活支援コーディネーター

R5.3 作成

【西区第1エリア協議体報告】

第1エリア（八軒・八軒中央・琴似二十四軒・山の手）

庄司 美智子

1 八軒「まわしよみ新聞運営懇談会」（令和4年6月3日）

（1）目的

- ・開催を継続するにあたり目的を共有するため。
- ・運営方針の確認。開催を継続して実施するため。
- ・今後、見守りの場としても活用できるようにしていく。

（2）協議結果

- ・開催経緯、目的（地域へ一歩踏み出す場、男性も女性も気軽に集える場、認知機能低下を予防する場、生活支援情報交換の場）を共有。
- ・運営は当面はコーディネーターが行う。毎月10日までにコーディネーターがチラシを作成し、会館、地区センターに配架。・ターゲット層の確認。
- ・無理に参加者を増やさず八軒地域に根差した活動にすべく地道に広報活動を行う。
- ・広報チラシを工夫する。・地域の見守りの場にしていく。

（3）現状

- ・今月で第13回を迎える。地域のサロンを取り上げた雑誌「ちさろ」に取り上げていただきそれを見て来てくれた参加者が3名いる。地域の情報を交換する場にもなっており「毎回楽しみにしている」という声も聞かれ回を重ねることにお互いの持ち味がわかり横のつながりもできつつある。

2 二十四軒「ラポール二十四軒買い物懇談会」（令和4年9月22日）

（1）目的

- ・地域包括支援センターより買い物に困っている高齢者がいるという情報があったため。
- ・買い物に関するアンケートを実施し、移動販売のニーズが明らかになった。移動販売業者さんにも参加してもらい、地域の支え合いの場所としてどんな場所にしていけば良いか話し合いが必要なため。

（2）協議結果

- ・移動販売調整へ至った経緯の確認。
- ・アンケート結果の共有。集計結果の考察。
- ・移動販売導入の合意。実施へ向けて具体的な日時や場所の話し合い。
- ・移動販売の目的を改めて確認。

(3) 現状

- 毎回 10 名程度の利用者あり。1 号館と 2 号館の間で行っていたが、冬になり 1 号館の利用がほとんどないことから 2 号館前で行うことになった。そのニーズに合わせ SC が町内会と業者さんの間に入ることでスムーズに駐車場所の移転ができた。極寒でもコンスタントに 10 名程度の利用ありニーズの高さを感じている。3 月に入り 4 号館の住民より自分の所でも移動販売を誘致したいとの相談の電話あり。次年度地域活動として取り組めるよう住民の方と相談しながら進めていきたい。

3 山の手「第 3 回山の手地域懇談会」(令和 4 年 1 2 月 1 6 日)

(1) 目的

- 昨年度に実施された山の手高校の除雪ボランティア。今年度も高校の協力を得られることとなり対象地域の選定と実施方法の確認を地域、各関係機関と確認し、話し合うため。
- 前回の協議体で移動販売の課題を共有し、地域・企業と調整しながら今年 4 月から 26 町内会、10 月から 30 町内会で移動販売がスタートしている。その現状を報告し合い地域で共有するため。

(2) 協議結果

- 地域の方と移動販売の現状、課題について共有できた。
- 除雪ボランティアについての理解を得て 26 町内会では地域の集まりの場として使用する道場やその周辺の高齢者の除雪について依頼があった。
- 西区土木センターの担当者も参加していただき除雪支援について昨年を引き続き用具借用の制度の利用ができることとなった。
- 土木センターと地域の除雪課題を共有し、地域の要望を直に伝える場となった。

(3) 現状

- 30 町内会の登山道入り口駐車場の移動販売は冬場極寒の中運営するのは中々厳しいものがあるが、土木センターの方に協議体に来ていただいたおかげで駐車場所に除雪車が入ってくれるようになり駐車スペースがうまれた。毎回民生委員さんや町内会長が来てくれまさに地域の見守りの場所となりつつある。

【山の手高校ラグビー部による除雪ボランティアの報告】

山の手高校ラグビー部による除雪ボランティアは1/28、2/4 両日開催。両日40名の参加。地域の除雪困難な高齢者のお宅や急こう配で除雪車が入りにくい山側地域の公道、公園、道場等を行った。除雪場所の選定については社会福祉協議会や地域の民生委員さん、町内会長さんの協力を得て募った。

当日は願いが通じたのが快晴の天気。山側の急こう配の地域でもなんのその。氷の塊の雪をガンガン削ってダンプで坂道を駆け上がる姿は圧巻。普通の人なら歩くだけで膝が痛くなるような坂道もラグビー部の生徒さん達にとってはうってつけの地域であった。

1回目終了後、SCとして生徒達の頑張りを皆様に知ってもらいたいと思い、道新の10区の記者さんに取材を依頼。2月17日に掲載されました。西区広報誌にも掲載。地域の人達も生徒の姿に圧倒され、元気づけられる活動となった。



2023 年度について

【エリア全体】

- 地域資源情報を更新し、アンケートのニーズに応えられるよう地域資源調べを継続。資源情報を冊子にまとめ高齢者が集まる場所で配布する。
- 地域の集まりの場に参加し、ニーズを把握し企業とのマッチングを行う。
- 他機関と連携しニーズを把握し、情報の共有に努める。

【琴似二十四軒】

- ラポール二十四軒移動販売が横の広がりをみせている。マンション住民の高齢化が進んでおり地域での支え合いの場になるようサポートする。
- 障がいのある方の就労支援「カフェつどい」で地域住民が主体となり月 1 回のサロンの立ち上げのサポート。4月から月 1 回開催される予定。やまべえ体操や地域情報交換のささえ合いの場所を目指す。山の手という地域にこだわらずカフェが隣接する琴似の方々も参加してもらえる場にする。

【山の手】

- 山側地域の 26 町内会、30 町内会での移動販売のサポートの継続。30 町内会では会長が回覧板の電子化に取り組んでおり、スマホのハードルが高い高齢者へのちょこっとスマホ教室を行いたい。
- 山の手高校除雪ボランティアの継続。回を重ねるごとに生徒さん達の除雪がレベルアップしている。よりニーズに合った場所をマッチングしていきたい。

【八軒】

- 今年度からスタートしている NPO 法人あかはな食堂スマイルキッズ主催の地域食堂ゆるり、NPO 法人イナクルの八軒東みんなの居場所の PR 活動。はちけん地区センターでパネル展示や交流会を予定している。
- 八軒中央連町のホームページがよいよ開設される。リンクを貼ってもらい地域活動を紹介する場として連携する。

【西区第2エリア協議体報告】

第2エリア（西町・西野）

北村 久美子

1 西町地区

昨年度に引き続き買い物や地域課題について宮の沢町内会で4月と1月に協議体開催

◇2022年4月27日

○買い物支援（とくし丸）について

- ・前年11月から定期運航開始。宮の沢の見晴らし公園脇で実施。常連7~8名に加え、新規もちらほらみられる。
- ・毎回町内会役員や民生委員が4名ほど来所し、商品陳列の設営をしてくれたり、声掛け荷物運びなどをしてきている。
- ・移動販売車の来訪が地域での見守りや交流の場になっている。

○町内会におけるボランティア活動について

- ・前回の協議体でゴミ出しや除雪など課題は他にもあるため、有償なども視野に入れたボランティアの結成について話し合われた。それを受けてボランティアグループ（爺さまの会）立ち上げに向かった。



◇2023年1月18日開催

○買い物支援（とくし丸）現況報告

○爺さまの会の活動状況報告と今後について意見交換

- ・会のモットーは「ゆる〜く」。規約や名簿はない。
- ・夏場は主に公園のゴミ拾いや草刈りなどの活動を行った。雪が降ってからはそれぞれの自宅付近のゴミステーションの除雪などを行っている。車で定期的に不法投棄などチェックして回っている。
- ・庭の下草刈りや空き家の整理など手に負えないような相談もあった。
- ・昨シーズン除雪支援した家は、今年は何とかなっている様子。現段階で依頼なし。

- 水道が壊れたと相談があり、自分たちではできないので地元の業者を紹介した。



2 西野地区

西陵高校生による地域生活支援ボランティア活動について 8月に協議体開催

◇2022年8月5日開催

○経過報告

○進め方の提案

○今後の具体的な動きについて

- 協議体ではサロンなど集団で交流の場を持ってからニーズを拾ったらどうかという意見や高校生たちの活動意欲に沿った進め方をしていくのがよいなどの意見が出た。

○協議体後の動き

- 協議体後、直接生徒たちに事業説明をし、取り組んでみたい活動について聞くため西陵高校を訪問。たくさんの意欲的な意見を聞くことができ、具体化へ向けて動き出した。
- 並行して立地町内会である平和第一町内会の協力を得て、回覧によるニーズの掘り起こしを実施。
- まちセン所長および予防センター職員と高校を訪問し、顧問の先生と懇談。顧問交代により今年度は具体的な動きに結び付けることができなかった。

2023 年度について

【エリア全体】

- 地域資源情報を更新し、まとめたものを必要としているところへの的確に届ける動きをつくる。
- 老人クラブやサロンの活動に企業の地域貢献事業（出前講座）を資源としてコーディネートし、活動の活性化を促す。
- 地域包括支援センターとも連携し、地域ニーズの掘り起こしを引き続き進める。

【西町】

- 引き続き宮の沢町内会の移動販売や爺さまの会支援。
- ちえりあの若者活動支援センターに来所する若者たちの力を地域ボランティアに活かせるような動きを介護予防センター西町の協力を得ながら作る。
- 生活支援のボランティアグループを立ち上げようと動いている方への支援。

【西野】

- 西陵高校ボランティア局の活動を具体的に進める。
- 現在西野中で行っている除雪ボランティア事業を福井野中でも実施できるよう動いていく。
- 丘陵地域における買い物支援として様々な資源の開発を目指す。
- 介護予防センター西野や民児協、福まちと連携することで更なる事業の浸透を図る。

1 発寒北

市営発寒団地の買い物支援を含む生活ニーズを調査する協議体

◇2022年10月31日

○買い物支援（とくし丸）について

- ・前年12月より試運転、1月より週1回、運行してもらっています。
- ・平均来場数は約5人、一見少ないように見えますがここが大事な外出の場になっているほか、コロナ渦で少なくなっていた住民同士の交流にもなっています。

○生活ニーズについて

- ・現状は自治会、各棟で協力し合いながら除雪や灯油の運搬はできているとの意見が出ました。まだコロナの影響も少なくない時期でしたので、落ちついてから新しい取り組みについて検討することにしました。



◇2023年3月27日開催予定

○年度末になるので1年間の振り返り、そしてコロナでの制限が緩和されつつあるので更に住民のニーズに合った生活支援が行えないか話し合う予定です。

2 発寒

住民のニーズや町の様子の聞き取り等の意見交流会

◇2023年3月2日開催

○「ささえ愛はっさむ」と題し、発寒についての色々な情報を住民同士で話し合う機会を設けました。

- 8月に開催した「ボランティア講習会」に参加した意欲のある地域住民を含む12名で開催今後4半期に1回集まり、町の主力担い手として活動していただけるように繋がりを大切にしたい
- 内容としては、地域資源情報の交換や見守り、集まりの場についての意見が出ました。



2023年度について

【エリア全体】

- 地域ニーズに合った社会資源をまとめ地域にだす。資源対象の店などにも生活支援体制整備事業についての普及と理解に努める
- 老人クラブやサロンの活動に企業の地域貢献事業（出前講座）を資源としてコーディネートし、活動の活性化を促す。
- 関係機関と連携し、単調レベルの聞き取りと支援を進める
- 生活支援体制整備事業を地域への認知度を上げるべくICT等を用いた広報活動の促進積極的なサロン、研修への参加

【発寒北】

- 発寒団地自治会の買い物支援、そのほか何か取り組めないかニーズを掘り起こす
- 自治会がなくなる、ピレッシェ琴似第2が地域で孤立しないように関係機関で連携した支援を行う

【発寒】

- 発寒地区の協議体を継続に行い地域の問題解決、ニーズ把握に努める
- 関係機関での連携した活動を発寒でも見える形で行いたい
(単町訪問、健康福祉相談会等)